

令和8年度第1回 金沢シビックテック推進協議会 会議概要

日時：令和8年7月21日（火）10:00～11:07

場所：金沢市役所第一本庁舎 405 会議室

出席者：小俣 博司 オープン川崎 代表

鶴山 雄一 金沢市 PTA 協議会 会長

福島 健一郎 一般社団法人コード・フォー・カナザワ 代表理事

松井 くにお 金沢工業大学工学部情報工学科 教授

矢後 智子 NPO 法人ネットワークアシストたかおか 副理事長

山口 いづみ NPO 法人あかりプロジェクト 代表理事

（五十音順）

事務局 南市民局長、山田市民協働推進課長、下池課長補佐、若林係長、浅永主査、朝井主査

欠席者：茂 知一 一般社団法人石川県情報システム工業会 理事

眞鍋 知子 金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授

1. 議案

議案第1号 令和7年度 事業報告

議案第2号 令和7年度 決算（案）

議案第3号 令和8年度 事業計画（案）

議案第4号 令和8年度 予算（案）

全会一致ですべて承認された

2. 報告

報告第1号 令和8年度 その他事業の方向性

3.委員意見等

令和7年度事業報告及び決算（案）について（議案第1号・第2号）

【委員】

Fish×Tech ハッカソンでどのようなアイデアやプロダクトが生まれ、その後どのような動きがあるのか。

【事務局】

発表された全プロダクトについては、石川県の公式 note やハッカソン公式サイトに掲載している。その後の具体的なものとして、漁獲の時期や傾向などのデータを可視化したチームが現在、漁協関係者との間で、実際の現場で活用できないか協議していると聞いている。ただし、行政としてその協議に直接入っているわけではなく、チームと現場で動きがあるという情報を把握しているにとどまっている。行政として十分なフォローアップができていないことについては、課題と認識している。

昨年度のハッカソンは、プロダクトを発表することを一つのゴールとして進めており、その後の支援体制まで設計できていなかったため、今後は、社会実装や継続的な開発を希望するチームに対して、金沢市や石川県の関係部局を紹介したり、関係者との間に入ったりすることが必要ではないかと考えている。

現在進行中の日本酒×ハッカソンについても、終了後の出口はまだ十分に設計できていない。事務局として、どのようなフォローアップ体制が必要なのかを含め、ゼロベースで検討している状況である。

【会長】

ハッカソン後のフォローアップは必要だと考えているが、行政がすべてを抱え込んで行う必要はないと思う。ハッカソン自体が、多様な主体による協働を目指す取組である。社会実装を目指すのであれば、行政だけではなく、シビックテック団体、地域団体、企業、大学など、さまざまな関係者を巻き込む必要がある。プロダクトごとに、どの団体や関係者と一緒に進めるとよいのかを考え、その担い手を積極的に探していくこともフォローアップになる。

行政だけが主体となる「行政ハッカソン」のような形になると、本来目指しているものとは異なってくる。地域の多様な主体と一緒に、プロダクトを育てていく視点が必要だと思う。

【委員】

相模原市が実施している「相模原アクセラレーションプログラム」が参考になると思う。このプログラムでは、自治体が市内の企業、大学、学校、支援機関などをつなぎ、マッチングを支援している。ハッカソンについても、行政が参加者を直接支援するだけではなく、アイデアに共感する企業や大学、団体等との出会いの場を作ることができるのではないかといい。特に、民間企業は、直接的なビジネスにつながらない活動には参加しにくい場合がある。市がハブとなって、アイデアやプロダクトと企業等をつなぐことができれば、その後の継続的な活動にもつながると思う。参考：相模原アクセラレーションプログラム (<https://sogyo.city.sagamihara.kanagawa.jp/sagamihara-acceleration-program/>)

【事務局】

行政がすべてを直接支援するだけではなく、関係する企業、大学、団体等との橋渡しを行うという視点も含め、今後のフォローアップ体制を検討したい。

【委員】

ハッカソンの情報が Code for Noto のウェブサイトや石川県の note など、複数の場所に掲載されているが、どれが公式情報なのか分かりにくい。情報を見る側にとっては、誰が発信しているものなのか、公式な記録なのかを判断できることが重要である。公式情報であることや、主催者が誰なのかを明確に記載した方がよい。

【会長】

今回のハッカソンは、石川県と金沢市、金沢シビックテック推進協議会が関係して実施しているが、外部から見ると石川県の取組だけに見える部分がある。開催時点では関係者が分かっているが、1年後、2年後になると、誰がどのように実施した事業なのか分からなくなる。金沢市や本協議会が関わり、その意思が企画に反映されていることが記録として残らないと、将来的な金沢市のシビックテック活動にとってマイナスになる可能性がある。主催者や運営体制が分かる形で情報を残す必要があると思う。

【委員】

地域課題解決プロジェクト事業では応募がなく、予算が余ることになった一方で、石川県との共催によるハッカソンでは、当初の想定を超える事業費が必要になったとのことだった。行政の事業では、一度決めた予算の使い道を変更することが難しい面もあると思うが、現場の状況を見ながら、必要性が低くなった事業から、より効果が見込まれる事業へ柔軟に予算を振り替えたことは非常によいと思う。今後も、事業の必要性や効果を見ながら、可能な範囲で柔軟に対応してほしい。

【委員】

「よりそうなかま」のマップは既に完成しているという理解でよいか。このようなマップがあることは、当事者や支援者の負担軽減につながるため、非常によい取組だと思う。資料には「令和８年度中に完了」と記載されているが、年度末までに実施するということではなく、可能な限り早くポータルサイトに掲載した方がよい。

【事務局】

マップ自体は完成しており、現在は、金沢市が運営する「よりそうなかま」のポータルサイト上で、直接閲覧できるようにするための改修を行っている。担当部署からも、早期の掲載ができる旨を確認している。

令和 8 年度 事業計画（案）及び予算（案）について（議案第 3 号・第 4 号）

【委員】

地域課題解決型ハッカソン開催事業には、ハッカソン終了後のフォローアップも含まれているという理解でよい。

【事務局】

フォローアップのための具体的な予算を計上しているわけではないが、ハッカソンの出口についても事業の中で検討したいと考えている。特に第 2 弾ハッカソンについては、まだ企画前の段階であるため、どのような出口を設定し、行政としてどのようなフォローアップを行うのかを、企画段階から検討したい。

【委員】

参加者に対し、ハッカソン終了後にどのような支援を期待しているのかを、アンケート等で確認してもよいと思う。

【委員】

子どもを取り巻くスマートフォンや SNS の利用について、多くの保護者が悩みを抱えている。SNS 上のいじめ、長時間利用、学習時間への影響など、デジタル化が進む一方で、さまざまな課題が生じている。スマートフォンや SNS を単に禁止することは難しい。デジタル技術を使わないようにするのではなく、使い方によって課題を解決する方法を考えるテーマとして、ハッカソンで取り上げることはできないか。保護者や子ども、教育関係者など、さまざまな立場の人が集まれば、小さなものでも具体的な解決策が生まれる可能性があると思う。

【事務局】

ハッカソンのテーマについては、毎回、どのような課題を取り上げるかを検討しており、子どもを取り巻く環境や SNS の問題についても、アイデア次第でさまざまなアプローチが考えられる。テーマの候補として検討していきたい。

【委員】

令和 7 年度の地域課題解決プロジェクト事業で、マッチ箱への課題投稿が 0 件だったが、なぜ 0 件だったのかを考える必要がある。ウェブサイト上で、市民からの投稿を待つ方法そのものに難しさがあるのではないかと。ただし、ウェブサイトだからうまくいかないということが本質的な問題ではなく、運用方法を変えれば機能する可能性はあると思う。

一方、ハッカソンには、具体的なテーマがあり、開催日や締切りが明確である、仲間と議論でき、データ分析や企画、発表の方法を学べ、多様な人が集ま

るといった利点がある。このため、参加者が集まり、活動が生まれる好循環ができています。マッチ箱では、利用者が少ないために議論が起こらず、さらに利用者が減るという悪循環が起きている。ハッカソンの好循環と、マッチ箱をうまく組み合わせる方法を考えるべきではないか。

そこで、ハッカソンで出された課題やアイデアのうち、継続的な議論や関係者とのマッチングが必要なものをマッチ箱へ掲載し、そこで議論を続ける仕組みが考えられる。ハッカソンでは多くのアイデアが出るが、実際に形になるものは限られるため、すべてを支援するのではなく、まず多くのアイデアが生まれる仕組みを作り、その中から可能性のあるものを拾い上げていくことが必要だと思う。オンラインとオフラインの両面から、どのようにアイデアを拾い上げ、次の活動につなげるのかを設計すべきであり、マッチ箱は、単に投稿を待つ場所ではなく、運営側が地域に出向いて課題を発掘し、課題を持つ人と解決者を継続的につなぐ、地域課題解決のプラットフォームになるべきだと思う。

【事務局】

マッチ箱には、オンライン上にいつでも投稿できるという利点がある一方で、最初の利用までのハードルが高いという課題がある。現在は、定期的に人が集まる場所になっておらず、課題の投稿も増えていない。ハッカソンで生まれたアイデアをマッチ箱に掲載し、プロジェクト化や社会実装に向けた議論につなげることができれば、「課題が出てこない」「人が集まらない」という二つの課題を同時に改善できる可能性がある。これまで繰り返し課題として挙げてきたハッカソンの出口戦略の一つの答えにもなり得る、非常に可能性のある提案だと受け止めている。今後の検討に取り入れたい。

【委員】

ハッカソン検討アドバイザーについて、テーマ選定など、企画段階だけに関わるものとして考える必要はないと思う。ハッカソンで生まれたアイデアやプロダクトの中から、可能性のあるものを拾い上げ、その後の実現に向けて支援する役割も考えられる。例えば、プロダクトの内容に応じて、行政部局、企業、大学、地域団体、専門家等の関係者につなぐことが考えられる。ハッカソンで発表して終わるのではなく、社会実装に向けた支援体制にもアドバイザーが関わる形があってよいと思う。

【事務局】

アドバイザーの役割について、当初はテーマ選定や企画内容、必要な関係者の検討など、企画段階で知見を提供していただく役割を想定していたが、意見を踏まえ、企画段階だけでなく、ハッカソンで生まれたプロダクトのフォローアップ、関係者への橋渡し、社会実装に向けた助言についても、アドバイザーの役割として検討したい。

【委員】

オンライン上のコミュニティを成功させるためには、事前に参加者同士の関係性ができていることが重要である。最初からオンライン上で交流を始めることはハードルが高く、誰が参加しているのか分からないため、参加者が増えにくく、固定化しやすい。ハッカソンなどのリアルな場で出会い、関係性を作った後に、マッチ箱などのオンラインツールで継続的に交流する仕組みは、一つの有効な方法だと思う。世界的に活動しているエンジニアのプロジェクトでも、最初は実際に集まって顔を合わせ、関係性を作ってからオンラインで活動を進めることがある。

【会長】

Code for Kanazawa でも、これまではリアルな場を大切にしてきた。シビックハックナイトなどの対面イベントを繰り返し開催し、参加者が交流する中から、新しい課題やアイデアが生まれてきた。連続したイベントを通じて、課題の整理からプロダクト開発まで進めた取組もあり、そこから代表的なプロダクトが生まれた例もある。マッチ箱については、課題を投稿しても、そこから実際に行動する人が少ないという問題がある。オンライン上だけで、活動へのモチベーションを維持することは難しい。ハッカソン等のリアルな場で実際の活動を進め、その内容をマッチ箱に反映し、オンライン上で継続する方法は有効だと思う。また、課題が投稿されるのを待つだけではなく、自治会、町会、福祉施設等に出向いて話を聞き、課題を拾うことも重要である。

令和 8 年度 その他事業の方向性（報告第 1 号）

【委員】

事業計画では、地域課題解決プロジェクト事業を休止すると説明されていたが、報告事項では、マッチ箱の運用を継続するとされている。休止するのはプロジェクト事業であり、マッチ箱自体を休止するわけではないという理解でよい。

【事務局】

休止するのは、マッチ箱に投稿された課題について企画を募集し、支援金を交付して、プロジェクトとして解決に取り組む従来の地域課題解決プロジェクト事業で、マッチ箱の運用自体は休止せず、地域課題について議論し、関係者をつなぐためのプラットフォームとして運用を継続する。

令和8年度 第1回

金沢シビックテック推進協議会

日時 令和8年7月21日(火) 10:00～11:30

場所 金沢市役所第一本庁舎 4階 405会議室

会議次第

1. 開会

2. 審議事項 •——• 議案第1号 令和7年度 事業報告 ※前回会議からの再掲

議案第2号 令和7年度 決算（案）

議案第3号 令和8年度 事業計画（案）

議案第4号 令和8年度 予算（案）

3. 報告事項 •——• 報告第1号 令和8年度 その他事業の方向性

4. 閉会

委員名簿

区分	氏名	役職	出欠
委員	小俣 博司	オープン川崎 代表	出席 (オンライン)
委員	茂 知一	一般社団法人石川県情報システム工業会 理事	欠席
委員	鶴山 雄一	金沢市PTA協議会 会長	出席
委員	福島 健一郎	一般社団法人コード・フォー・カナザワ 代表理事	出席
委員	松井 くにお	金沢工業大学工学部情報工学科 教授	出席
委員	山口 いづみ	NPO法人あかりプロジェクト 代表理事	出席 (オンライン)
委員	眞鍋 知子	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授	欠席
委員	矢後 智子	NPO法人ネットワークアシストたかおか 副理事長	出席 (オンライン)
監事	三傳 敏一	金沢市会計課長	欠席

(敬称略)



審議事項



議案第 1 号

令和 7 年度 事業報告

1. 地域課題解決プロジェクト事業
2. シビックテックスクール開催事業
3. データを活用した地域課題解決推進事業
4. 情報発信事業

※ 令和 7 年度第 2 回会議資料からの再掲

令和7年度事業の位置づけ

令和7年度は第2期の最終年度となり、以下4つの事業を実施。

第1期

令和2～4年度

- ・ 地域課題マッチング事業
- ・ オープンデータ拡充事業
- ・ 人材育成事業
- ・ 情報発信事業

第2期

令和5～7年度

- ・ 地域課題解決プロジェクト事業
- ・ データを活用した課題解決推進事業
- ・ シビックテックスクール
- ・ 情報発信等事業

第3期

令和8～10年度

- ・ 地域課題解決型ハッカソン
- ・ オープンデータデイ
- ・ シビックテックスクール
- ・ 情報発信等事業

1.地域課題解決プロジェクト事業

- ・ 課題募集期間：令和7年5月22日（木）～10月31日（金）
- ・ 企画募集期間：令和7年11月1日（土）～1月31日（土）
- ・ 内容：生活の中でのお困りごと等、地域課題を地域課題マッチングボックス「マッチ箱」に投稿してもらう

募集結果： **0** 件

（考えられる要因）

- ・ 本支援事業の周知不足。
- ・ 「マッチ箱」自体の周知不足もあり、地域課題収集がうまく機能しなかった。

金沢シビックテック推進協議会 令和7年度 地域課題解決プロジェクト事業

シビキテックで解決！

プロジェクト支援金 **10万円**

地域のお困りごと大募集！

投稿締切 **10.31**

地域のお困りごとをマッチ箱に投稿しよう！

地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」上で解決に取り組んでみたい方とディスカッション！さまざまな参加者が協働して解決を目指します。

※金沢市内の課題限定（市外居住者・団体等も参加OK）

古紙回収の場所はどこだろう？ 病院の対応状況を調べたい
トイレのある公園はどこ？ 用水の転落事故がこわい...

地域課題解決マッチングボックス **みんな**
それ、**マッチ箱**で解決しませんか？

～10/31(金) 課題投稿締切

1 地域課題の投稿
具体的な地域課題（お困りごと）を市がウェブページへ投稿します。
テーマは自由、小さな課題でもOK。

2 マッチ箱での意見交換
投稿した課題について「マッチ箱」でほかの参加者と解決アイデアや意見の交換を自由に行います。

3 マatchingイベント
課題に賛成や作り手などが課題解決アイデアについてディスカッションを行うイベントに参加します。

4 プロジェクトチーム結成
解決アイデアの實現に向けて協働を行うことが可能な場合はプロジェクトチームを結成します。

5 企画書提出・支援決定
ICTを活用した解決策の企画書を提出。事務局での審査の上、支援決定されます。

6 プロジェクト始動
プロジェクトチームで始動を進めます。支援決定から8か月程度での実行・公開を目指します。

11月開催予定

【注意】
投票の対象となる解決アイデアは、**に1票を投票した人**にのみ投票可能。
例 アプリアの活用、Googleマップなど既存のウェブサービスの活用 など

※事務局は必要ではありません。
※事務局は必要ありません。

【過去のプロジェクト実施例】
金沢市古紙等回収拠点マップ

金沢シビックテック推進協議会
〒920-8577 金沢市広域1-1-1 市民協働推進課内
TEL: 076-220-2026 FAX: 076-260-1178
Mail: kyooudou@city.kanazawa.lg.jp

「シビキテック」とは？
市民がテクノロジーを活用して、地域が抱える課題を解決しようとする取り組みや考え方。金沢で拡大中！

詳細はこちら

1.地域課題解決プロジェクト事業

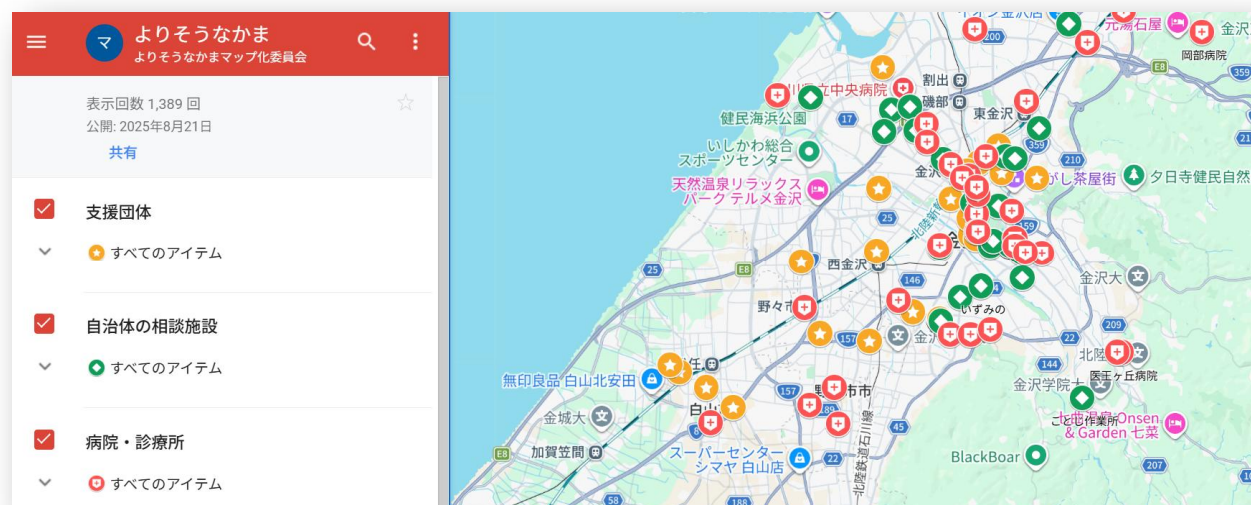
令和6年度支援プロジェクトの進捗状況 「よりそうなかまの冊子の見える化」

- Googleマイマップ機能を利用した**公開マップの開発が完了**

<https://www.google.com/maps/d/u/0/viewer?mid=106GULwWaQLJNdCG28XKtxTbpbe1CxAw&ll=36.56756718597549%2C136.64398590000002&z=11>

- 支援団体だけでなく、自治体の相談機関、病院・診療所（心療科中心）の情報を集約
- 「よりそうなかま※」ポータルサイト (<https://yorisou-nakama.net/>) へ掲載（令和8年度中に完了）
- サービスの継続に向けて、同サイトの委託業者へ開発データの引継を行い、運用・更新を市から委託

※よりそうなかまとは、
生きづらさを抱える方へ向けた
情報をまとめたポータルサイト



2.シビックテックスクール開催事業

開催概要

- ・ 開催日時：令和7年10月18日(土)、11月1日(土)
14:00-16:30（全2回）
- ・ 開催場所：石川県地場産業振興センター
- ・ 参加人数：第1回 14名、第2回 16名

日程	内容
第1回	・ Canvaでチラシ作成 ・ Googleフォーム作成 ・ 二次元コード作成、チラシ完成 ・ LINE オープンチャットで共有
第2回	・ 生成AI、ChatGPTの概要説明 ・ ハンズオン体験 ・ グループワーク ・ プロンプトのコツ ・ その他生成AIの紹介

先着
20名

シビックテックスクール2025

参加
無料

広報×AI

～地域活動を加速する最新AI～

町会、市民団体、育友会など
団体活動で活用できる生成AI、
デザインツールをゼロから学ぶ
ChatGPT・Canva...



Code for Kanazawa
雄谷 峰志 × 佐々木 修吾

2025.
10.18土 + 11.1土
14:00 - 16:30

**2日間
集中講座**

石川県地場産業振興センター
新館3階 第8会議室

お問い合わせ

シビックテックとは？

金沢シビックテック推進協議会
金沢市市民協働推進課内
MAIL: kyoudou@city.kanazawa.lg.jp
TEL: 076-220-2026

Civic（市民）とTech（テクノロジー）を
かけ合わせた道。行政サービスだけでは解決が難しい
地域のさまざまな課題をICTを活用して
市民みんなで解決していく活動。

お申込みは
こちら



3.データを活用した地域課題解決推進事業

開催実績

① オープンデータデイいしかわ2026

令和8年2月28日開催、18名参加

② クマ×共生ハッカソン

令和7年7月26日～9月27日開催、Day1 41名／Day2 41名参加

③ Fish×Techハッカソン

令和8年1月24日～3月15日開催 Day1 70名／Day2 70名参加

前年度からの変更点

- ・「オープンデータデイ」イベントとは別に、ハッカソンを初開催。より専門的知識の高いエンジニアや情報系の学生などに向けてデータ活用やシビックテック活動を周知。
- ・一般的なハッカソンと異なり、具体的な地域課題をテーマとして設定することで、地域課題について考えてもらうきっかけとするほか、シビックテック活動への関心を高めてもらう。



3.データを活用した地域課題解決推進事業

① オープンデータデイいしかわ2026

- ・ 共催 : Code for Kanazawa (後援: 石川県)
- ・ 開催日時 : 令和8年2月28日(土)
(※3月第一週を中心とした世界的な「オープンデータデイ」にあわせて開催)
- ・ 開催場所 : 金沢未来のまち創造館 多目的室2
- ・ 参加者 : 18名 (学芸員、エンジニア、行政職員など)

前年度からの変更点

- ・ 文化芸術をテーマとしたことで、学芸員など新たな層の参加があった。
- ・ 画像オープンデータや「OPEN GLAM」を取り上げたことで、これまでとは違う視点でのデータ活用の可能性を啓発することができた。



3.データを活用した地域課題解決推進事業

② クマ×共生ハッカソン

- ・ 共催 : 石川県デジタル推進監室（共助のビジネスモデル検討協議会）
- ・ 開催日時 : 令和7年7月26日（土）・9月26日（土）各13:30-17:00
- ・ 開催場所 : 石川県地場産業振興センター
- ・ 参加者 : Day1 41名、Day2 41名
- ・ 発表者 : 8チーム、10プロダクト



開発初心者歓迎！
アイデアだけでもOK！

あなたのアイデアが
石川の安全を変える

クマ×共生 HACKATHON

人里に現れるクマ…人の安全を守るため、地域課題とオープンデータをもとに「クマとの共生」をカタチにする実践型の共助ワークショップ&ハッカソン

開発チームでも個人での参加も大歓迎！
アイデア・デザインだけ、地域の現状を知りたいなど開発経験がない方もぜひご参加下さい！

第1部 7月26日（土）13:30-17:00
課題発見 石川県地場産業振興センター 第12研修室（予定）
クマの専門家からの最新情報、現場の声、データをもとに「安全を守るしくみ」をみんなで考える

第2部 9月27日（土）13:30-17:00
課題解決 石川県地場産業振興センター 第10研修室（予定）
第1部で生まれたアイデアをチームでブラッシュアップし、プロダクトとして形にした成果を発表
※「アプリケーション」もしくは「アイデア」として提出

イベント詳細
申込はこちら

主催 石川県 共助のビジネスモデル検討協議会（IUDC） 後援 白山市
金沢市 金沢ビックテック推進協議会

問合せ 石川県デジタル推進監室 e12030@pref.ishikawa.lg.jp / 076-225-1243



3.データを活用した地域課題解決推進事業

③ Fish×Tech ハッカソン

- ・ 共催 : 石川県デジタル推進監室（共助のビジネスモデル検討協議会）
- ・ 開催日時 : 令和8年1月24日（土）～ 3月15日（日） 各13:00-17:00
- ・ 開催場所 : Day1 ITビジネスプラザ武蔵、Day2 石川県地場産業振興センター
- ・ 参加者 : Day1 70名、Day2 70名
- ・ 発表者 : 21チーム



FISH×TECH

#いしかわの海の幸をアプデせよ

漁業×ハッカソン

石川＝のどろろ、それだけじゃない、海から食卓まで、まだ光が当たっていない「価値」がある。獲る・売る・食べる現場のリアルな声とデータを融合。「現場の知見×データ×テクノロジー」の力で解決策を考え抜き、石川県の水産業全体をアップデートする実践を目指します。未来のいしかわの海と食を、ともに創りませんか？プロトタイピングを実践したい方、初心者の方、どなたでもご参加いただけます。

DAY1 [課題発見編]

2026.1.24 SAT
13:00~17:30

ITビジネスプラザ武蔵 ホール

漁師や行政などの声を聞き、市場での現地調査や提供されるデータを見て課題を見つけます。

DAY2 [課題解決編]

2026.3.15 SUN
13:00~17:00

後日公開

開発したプロトタイプをプレゼン、参加者による体験・投票を行い、審査・表彰を行います。

主催 石川県 共助のビジネスモデル検討協議会(IJDC)
協力 金沢市 金沢シビックテック推進協議会
共催 JFいしかわ

石川県デジタル推進監室
e120300@pref.ishikawa.jp / 076-225-1243

詳細はwebをチェック!

QRコード

いしかわの海の幸をアプデせよ

ISHIKAWA

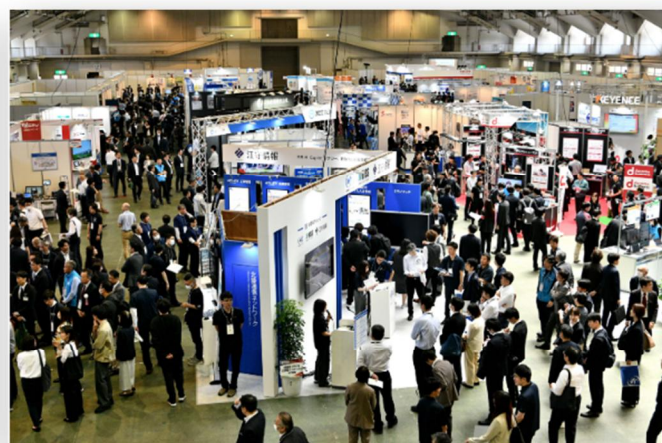
4.情報発信事業

e-messe Kanazawa ブース出展

石川県産業展示館で開催されるイベント（来場者1万人超）初出展

- ①シビックテック活動、協議会事業の紹介（パンフレット等配布）
- ②シビックテックミーティングカナザワの紹介（アーカイブ動画放映）
- ③リニューアル版マッチ箱のデモ（PCで画面デモ、チラシ配布）

2日間にわたりブース出展。名刺交換までできたブース来場者は50名超程度に留まったが、開催後のイベントへの集客にも一定の効果はあった。





議案第2号

令和7年度 決算（案）

令和7年度 決算（案）

【収入】

（単位：円）

項	目	予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	備考
1 受託事業収入	委託料	2,500,000	2,381,279	△ 118,721	金沢市へ返納
2 その他収入	雑入		2,080	2,080	預金利子
合計		2,500,000	2,383,359	△ 116,641	

【支出】

（単位：円）

項	目	予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	備考
1 事業費		2,500,000	2,169,254	△ 330,746	
	①地域課題解決プロジェクト事業	684,000	15,178	△ 668,822	プロジェクト支援金等※1
	②シビックテックスクール開催事業	650,000	518,334	△ 131,666	開催委託費等
	③データを活用した地域課題解決推進事業	350,000	1,408,425	1,058,425	有識者謝礼等※2
	④情報発信事業	466,000	227,317	△ 238,683	ポータルサイト保守費※3
2 運営費	事務費	350,000	214,105	△ 135,895	委員謝礼等
合計		2,500,000	2,383,359	△ 116,641	

※1 地域課題解決プロジェクト事業において、当初見込よりも企画書の応募件数が少なく、0件に留まったため支援金が減額となった。

※2 データを活用した地域課題解決推進事業において、新たに石川県と協働でハッカソンを2回開催したことにより、開催費が増額となった。

※3 情報発信事業において、パンフレット印刷等を行わず、SNSでの情報発信を中心に行ったことなどにより執行額が減少となった。

会計監査報告

令和7年度金沢シビックテック推進協議会の会計決算書および関係書類を監査した結果、収入、支出いずれも適正であったことを報告します。

令和 8 年 6 月 29 日

監事

三 傳 敏 一



議案第3号

令和8年度 事業計画(案)

1. 地域課題解決型ハッカソン事業
2. シビックテックスクール開催事業
3. データを活用した地域課題解決推進事業
4. 情報発信事業

令和8年度事業の位置づけ

第3期においては、主要事業である「地域課題解決プロジェクト事業」を見直し。

第1期

令和2～4年度

- ・地域課題マッチング事業
- ・人材育成事業
- ・オープンデータ拡充事業
- ・情報発信事業

第2期

令和5～7年度

- ・地域課題解決プロジェクト事業
- ・シビックテックスクール
- ・データを活用した課題解決推進事業
- ・情報発信等事業

第3期

令和8～10年度

- ・地域課題解決型ハッカソン
- ・シビックテックスクール
- ・オープンデータデイ
- ・情報発信等事業

+

シビックテック
ミーティング

1.地域課題解決プロジェクト事業（休止）

地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」上で市民や団体、企業等の様々な主体が、地域課題の共有と解決に向けたディスカッションを行う。

解決に向けた協働が可能な場合は、希望者で「プロジェクトチーム」を結成して取り組む。

課題

- 投稿された課題に対して議論が深まるケースが少ない
- マッチ箱への投稿件数が少なく、提出される企画数が少ない
（R4:3件、R5:0件、R6:2件、R7:0件）
- 支援を受けて開発されたプロダクトを維持することが難しい

▶ 地域課題解決に取り組んでもらうきっかけ、機運醸成に取り組むべき。
→「地域課題解決型ハッカソン開催事業」へ事業変更



1.地域課題解決型ハッカソン開催事業（新規）

令和8年度執行予定

具体的な地域課題をテーマとしたハッカソンを定期開催することにより、市民・技術者・行政などの主体的な参加と協働を促し、単なるアイデア出しにとどまらない成果を生み出し、継続的な活動および社会実装へと発展させる仕組みづくりを行う。

→年2回程度 石川県と共同で開催

期待される効果

- ・ **多様な参加者の獲得：**課題発見から開発まで一貫して取り組むことで、技術者だけでなく、地域の専門家など、多様な人材の参加を促す。
- ・ **市民の主体性向上：**市民自身が地域の課題解決に主体的に関わることで、本市におけるシビックテック人材の裾野を広げる。



令和8年度 日本酒×ハッカソン

1.地域課題解決型ハッカソン開催事業（新規）

(3) 官民共創型イベントの実施

金沢市主催で社会課題解決型のアイデアソンやハッカソンを開催し、そこに民間の人だけでなく、市役所職員も積極的に参加する

そうすることで、市役所職員と市民や企業、NPOの人たちが一つのチームを作り、同じ目線で課題を考えることができる

「地域の課題はその地域に住むみんなで考え、それぞれの役割で協力して力を発揮し、全員で解決していくこと」だという当たり前のことをイベントを通じて誰もが学んでいくができる

そして、金沢市全体で共創の意識が変わっていくことになる

成果はオープンに公開していくほか、成果をCode for Kanazawaなどの民間団体に移譲することで、ハッカソン参加者も団体の場で継続していくことが可能になる

R8年度から年に一回、ハッカソンを開催、推進していく

1.地域課題解決型ハッカソン開催事業（新規）

第1弾 開催概要

- ・ イベント名：日本酒×ハッカソン
【共催】石川県デジタル推進監室（共助のビジネスモデル検討協議会）
- ・ 開催日時：Day1 令和8年7月4日（土）／ Day2 9月27日（日） 各13:00-17:00
- ・ 開催場所：ITビジネスプラザ武蔵／ 石川県地場産業振興センター
- ・ 参加者：Day1 100名



#いしかわの日本酒をアプデしまっし

日本酒

SAKE X TECH

ハッカソン

ISHIKAWA 2026

石川県は全国有数の酒どころ。伝統の蔵が醸す文化は、この地のアイデンティティそのものだ。しかし今、担い手不足・被災・飲酒人口の減少など、時代の波が酒産業界に押し寄せている。このハッカソンでは、蔵元が直接参加し、現場のリアルな声とデータを起点に、チームを組んで課題解決に挑む。アプリ開発・データ可視化・生成AI・ハイブコーディング——あなたのアイデアと技術で、石川の日本酒の未来を切り拓こう！特別な経験は不要。興味と意欲があれば、学生でも社会人でも、チームでも個人でも、どなたでも参加できます。詳細はwebをチェック！

特設サイトは  申込はこちら 

DAY1 課題発見編	開発期間	DAY2 課題解決編
7月4日 13:00～17:00 ITビジネスプラザ武蔵ホール 石川の蔵元・販売者から送り手と売り手のリアルな現場の声を聞き、提供されるデータをもとに課題を見つけます。	DAY1で出た課題に対し、各チームでプロトタイプの開発を行います。（アプリケーション、ビジュアル化・ゼーション、その他サービス）	9月27日 13:00～17:00 石川県地場産業振興センター 新館 コンベンションホール 開発したプロトタイプをプレゼン。参加者による体験・投票を行い、審査・表彰を行います。

主催 ● 石川県 共助のビジネスモデル検討協議会 (IUDC)、金沢市 金沢シビックテック推進協議会
協力 ● 株式会社東多酒造、東酒造株式会社
問合せ ● 石川県デジタル推進監室 ☎0120300@pref.ishikawa.lg.jp ☎076-225-1243

1.地域課題解決型ハッカソン開催事業（新規）

第2弾 開催に向けての検討体制（案）

- ・ 当協議会からハッカソン検討アドバイザーを募り、検討体制を構築する。

課題

金沢シビックテック推進協議会の意思を企画に反映できてない。

当協議会事務局（金沢市）と石川県で企画検討を行っており、**当協議会の委員が企画の検討に入れていないため。**

解決策

金沢シビックテック推進協議会から**アドバイザー**を募る。

当協議会委員から**ハッカソン検討アドバイザー（仮）**を募り、企画の検討段階から協議に参画することで、当協議会の意思を反映したハッカソンを実現する。

2.シビックテックスクール開催事業

ICTを活用した地域課題解決に興味を持つ方を対象に、ノーコードツールを活用したアプリ等の開発や、Googleアプリケーション等の活用に関する講座を開催することで、地域課題を自ら解決できる人材を育成する。

課題

- ・ イベント参加者の固定化
- ・ ツール活用を学ぶだけでは、具体的な地域課題解決まで繋がりにくい

令和8年度執行予定

- ・ より実践的な学習（講座回数の増 2回→3回程度）
- ・ 市事業「市民活動DX推進事業」の廃止に伴う、市民向け講座としての役割の強化



先着 20名 参加無料

シビックテックスクール2025

広報×AI

～地域活動を加速する最新AI～

町会、市民団体、育友会など
団体活動で活用できる生成AI、
デザインツールをゼロから学ぶ
ChatGPT・Canva...

Code for Kanazawa
雄谷 峰志 × 佐々木 修吾

2025. 10.18(土) + 11.1(土) 2日間
14:00 - 16:30 集中講座

石川県地場産業振興センター
新館3階 第8会議室

お問い合わせ シビックテックとは？
金沢シビックテック推進協議会
金沢市市民協働推進課内
MAIL: kysdoso@city.kanazawa.lg.jp
TEL: 076-220-2026

Civic（市民）とTech（テクノロジー）を
かけ合わせた連携。
行政サービスだけでは解決が難しい
地域のさまざまな課題をICTを活用して
市民みんなで解決していく活動。

お申込みは
こちら



令和7年度募集チラシ

3.オープンデータデイ開催事業

市民や市民団体等が、自らの課題解決に生かすため、データの収集や活用方法など、データの基礎について学ぶワークショップを主としたイベントとして「オープンデータデイ」を開催する

課題

新たな層へのリーチ、参加者増加

令和8年度執行予定

- ・「オープンデータデイ」（3月第一週）にあわせたイベントを継続
- ・データの「活用」を重視し、ハンズオンを含め、より実践的なデータ活用を学べる内容にシフト

参考：過去開催内容

令和2～4年度「オープンデータラウンドテーブル」	市民や企業等と行政が集まり、データ公開に向けた議論を行う
令和5年度「市民のためのデータ活用講座」	BIツール「Tableau」によるデータ活用体験
令和6年度「オープンデータデイいしかわ」	データ活用講演、オープンデータを活用したGoogleマップ制作体験
令和7年度「オープンデータデイいしかわ」	金沢ミュージアム+、画像オープンデータ紹介、活用ワークショップ



令和7年度募集チラシ

4.情報発信事業

シビックテック及び当協議会の事業について発信を行い、市民へのシビックテックの浸透を図る。

課題

- ポータルサイトのページビュー数が伸び悩んでいる
- Facebookのフォロワー数等が伸び悩んでいる
- デジタル関係に馴染みがない方々へ周知する手段が限られている



令和8年度執行予定

- 市民へのシビックテック活動のさらなる普及啓発のため、広報強化について検討を行う。
（例：関連イベントでのさらなる活動周知、SNS等での有料広告の掲載など）



議案第4号

令和8年度 予算（案）

令和8年度 予算（案）

内容	事業種類	事業内容	費目	R8予算額	R7予算
運営費	協議会開催	金沢シビックテック推進協議会 （年2回開催：7月、2月頃）	委員謝礼、招聘旅費 等	300,000	350,000
事業費	地域課題解決型 ハッカソン開催事業	ハッカソンの開催（2日間×2回）	講師・審査員謝礼、チラシ 印刷費、会場費 等	1,100,000	684,000
	シビックテック スクール事業	シビックテックスクールの開催（3日間）	開催委託費、チラシ印刷費、 会場費 等	700,000	650,000
	データを活用した 課題解決推進事業	オープンデータデイいしかわの開催 ・啓発イベント開催 （石川県・Code for Kanazawa共催）	講師謝礼・旅費、チラシ印 刷費、会場費 等	200,000	350,000
	情報発信事業	情報発信事業 ・ポータルサイト&Facebook運用 ほか	ポータルサイト保守費 等	200,000	466,000
合計（税込）				2,500,000	2,500,000



報告事項



報告第1号

令和8年度 その他事業の方向性

※ 協議会事業以外の関連する市主催事業

1. シビックテックミーティングの開催
2. 地域課題解決プラットフォーム「マッチ箱」の運用

1.シビックテックミーティングの開催

地域の市民や団体等を主な対象とし、シビックテックに取り組む方々や興味がある方々と、地域課題を持つ方々が実際に顔をあわせ、協働につなげるためのイベントを開催する。

課題

イベント参加者のさらなる増加、新たな層へのリーチ

令和8年度の方針

引き続き、地域の市民や団体等を主な対象としたシビックテック普及啓発イベントを11月14日(土)に開催する。



Civic Tech Meeting KANAZAWA 2025 参加費 無料
シビックテックミーティング カナザワ

見えない世界 + **シビックテック**

視覚障害の「今」を知る、体験する

日時 2025年11月15日(土) 13:00-16:00 (受付12:30~)

会場 金沢未来のまち創造館 石川県金沢市野町3丁目11-1 TEL/076-280-3115

同時開催: パッチ箱交流会

会場案内: JR金沢駅から北陸鉄道路線バスにて「野町」下車徒歩5分 / 北陸自動車道金沢西ICから20分

シビックテックカナザワ  参加申込フォーム▶

令和7年度募集チラシ(仮)

2.地域課題解決プラットフォーム「マッチ箱」の運用

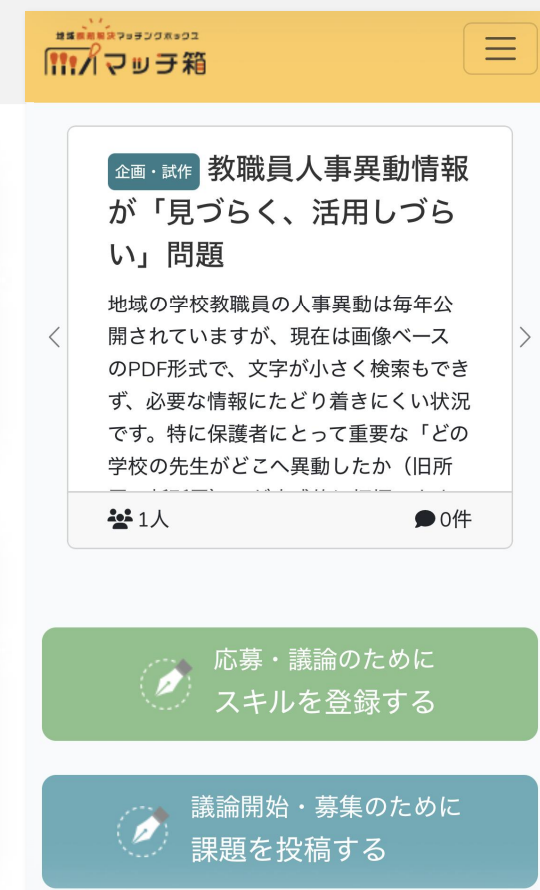
地域課題の解決に向けて、市民や団体等がディスカッションを行い、解決に向けた協働を行うためのプラットフォームとして運用を継続する。

課題

- ・課題投稿件数が少ない（金沢市やコードフォーカナザワの投稿が大半）
- ・投稿された課題に対して、議論が深まらず、解決に結びつかない

令和8年度の方角性

- ・シビックテック関連イベントでの普及啓発
- ・ハッカソンで使用する機会を組み込み、ユーザーを拡大



マッチ箱 ウェブサイト